科目ナンバリング	G-LAS15 80036 LJ95								
授業科目名 <英訳>	総合知入門 Introduction to Convergence Knowledge				担当者所属 職名・氏名	総合生存学館 特定教授 宇佐美　文理			
群	大学院横断教育科目群	分野(分類)	複合領域系		使用言語	日本語			
旧群		単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）		
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	月4		配当学年	大学院生	対象学生	全学向	

（総合生存学館の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

学術全体に対して提唱されている「総合知」はいかなるもので、いかなるものであるべきかを、特に文理融合という観点から考える。文理融合は、総合知を形成する一つの重要な観点だが、そもそも文理融合とは何なのか。なぜ文理融合が必要なのか、具体的にどのようにすればいいのか。これらのさまざまな問いに対して、文系理系とはいったい何なのか、という原理的なところから、具体的な取り組みまで、その基本を学ぶことにより、みずからの研究の幅を総合知にまで広げる端緒を得る。

[到達目標]

文理融合とは何かについて、自らの言葉で話すことができ、さらに、自らの研究をどのようにしてどのような文理融合的なものにすればよいかの見通しを持つ。

[授業計画と内容]

1，イントロダクション
　総合知とは何か、文理融合とは何かについて概要を知るとともに、授業の内容を概説し、提出が必要となるレポートの準備などについても説明する。
2．文系理系とは何か
　文系理系という考え方の概要と、それが「学問によって人を選別するもの」であることを学ぶ。

3．自由の学風と文理融合
　京都大学ではどのように文理融合の研究が行われてきたのかについて、URAが作成した「Aspiring to Transcend --京都大学における人文社会科学を中心とした融合研究の先例調査報告書」を教科書にして、その歴史と実例を学ぶ。
4，ELSIとRRI、さらにその先へ
　文科省が提唱する総合知の標語として知られる、ELSI(Ethical, Legal and Social Issue）とRRI(Responsible Research and Innovation)の二つについて、概要を知るとともに、具体的にどのような形で行われているのか、そもそもこの二つはどのような違いがあるのか、将来的には何をめざすべきなのかを考察する。さらに、ELSIとRRIが、なにかある科学技術について、それを来るべき社会に合致するものにしようという発想であるのに対して、まず「目指すべき社会像を提示した上で、そのような社会を実現させるために、そもそも科学技術にいったい何が出来るのかを考える」という考え方について議論する。
5，共同研究と「ひとり文理融合」
　およそ文理融合研究は、チームで行われるのを常とするが、「ひとり文理融合」をする場合に、それはどのようなものである必要があるのか、どのようなものが理想とされるのかを考える。
6．具体的な「ひとり文理融合」の例を参考にする
　京都大学において、現在、具体的に「ひとり文理融合」がなされている例から、その秘訣を考える。これについては、URA数名に登壇をお願いして、その研究の内容を語ってもらう。
7，理系研究者にとっての文系の意味と魅力　―ノーベル賞受賞者はなぜ『荘子』を好むのか―
　湯川博士と「混沌」、北川博士と「無用之用」に見られるように、優れた研究者になぜ『荘子』

総合知入門(2)へ続く↓↓↓

が好まれるのか。Natural science と『荘子』の「自然」観の関係を手がかりに考察する
8．文系研究者にとって理系の意味は？
　文系研究者が理系の知識を必要とする場面がさまざまにあることは当然だが、それにとどまらず、理系研究者と知的交流をする「楽しみ」を含めて考えてみる。
9．社会課題か、純粋に学問的なものか、手法か対象か。
　文理融合は、社会課題に対する場合と、純粋に学問的な問題を明らかにする場合ではずいぶん状況が異なる。また、融合研究をする際に、同じ対象に違う手法をとるのか、そもそも異なる対象を扱うのか、など、それぞれの場合について何が問題となるのかを考察する。
10．提示されたいくつかの社会課題に対して、自らの研究分野がどのように寄与しうるかを考えた各自のレポートをもとに、出席者で議論する。
11，同上第二回
12．自らの研究を、どのようにして「理想的な」文理融合的なものにするのかについてのアイディアを記したレポートをもとに、出席者で議論する。
13．同上第二回
14．結局われわれはなにをしていけばいいのかを出席者で討論する。
15．フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（レポートならびに授業時の議論などを総合的に判断します）

[教科書]

『Aspiring to Transcend --京都大学における人文社会科学を中心とした融合研究の先例調査報告書』（（出席者には配布します））

[参考書等]

（参考書）
太田次郎 『文化の発想・理科の発想』（講談社現代新書）ISBN:9784061456303
隠岐さや香 『文系と理系はなぜ分かれたのか』（星海社新書）ISBN:9784065123843
その他、適宜授業時に紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

授業の要点を復習するだけでなく、二度のレポートを書くことを念頭に、分野を問わず、さまざまな書物を手に取る習慣をつけてください。

[その他（オフィスアワー等）]

分野を問わず、研究の幅を広げたい学生諸氏の参加を歓迎します。

[主要授業科目（学部・学科名）]